## 環境教育とＥＳＤ

20 世紀後半、日本では各地で産業の発展に伴って公害や自然破壊が発生しました。これらの問題について考え、ここから学ぶ学習として日本の環境教育は始まりました。しかし、問題が地球規模に広がるにつれて、このままでは私たちの暮らしは持続していけないという大きくて複雑に絡んだ問題へと変化していきました。この段階になって環境教育は他の分野（貧困、人権、平和、食糧問題など）も含んだこれからの持続可能な社会をどのように作っていくのかということを考えることを目的とした教育、即ち持続可能な開発のための教育 ESD(Education for Sustainable Development)へと繋がってきました。

この観点から考えると環境教育は ESD そのものであるとも考えられますし、ESD の基礎となった一部であるとも言えます。また、その学びのあり方についても人類が直面する答えのない問題を解決していくことを目的とすることから、課題解決型、参加型へと変わっていきました。ESD は、持続可能な未来や社会づくりのために行動できる人を育てることを目的にした教育であるため、その領域は広く、環境、国際理解、人権、防災、エネルギーなど多様な分野を含みます。また、この学習の構成概念や身に付けさせたい能力や態度については、国立教育政策研究所が 6 つの構成概念と 7 つの能力・態度（例）を整理しています（資料２参照）。

## ＥＳＤカレンダー

このような教科横断的に広い領域の学習を新たに学校に持ち込むことは、学校の現状を考えると非常に困難な面があります。しかし、その一方で、ＥＳＤに関連する内容は、現在の教科学習の中に断片的に多く取り入れられており、それらをＥＳＤの視点からつなぐことによって目的を達成することのできるものも数多くあります。

そこで、現在、四日市市内の小・中学校で使用されている教科書から、ＥＳＤに活用できると思われる教材を抜き出し、学年ごとにカレンダー風にまとめたものを作成しました。これがＥＳＤカレンダーです。これを見ることによって他学年や他教科でどのような学習をどの時期にやっているのかを一望することができ、学習の重複を避けたり、学びを関連付けたりすることに役立つのではないかと思います。

カレンダーに示した内容には、いろいろなタイプの教材がありますが、大きく分けると以下の 3 つのタイプがあります

① 授業のねらいがＥＳＤのねらいと合致するもの（授業直結型）

② ＥＳＤに関連する内容が教材として使用されているが、授業のねらいは、それとは別のもの（教材使用型）

③　①でも②でもないが、教師の裁量で、ＥＳＤの内容を付加できるもの（視点導入型）。

カレンダーの説明文には、取り扱っている内容がわかるような簡単な説明を心かげました。

**このカレンダーの使い方**

このカレンダーは、教科書からのＥＳＤ関連分野の抜き出しにすぎません。これらの教材を取捨選択し、総合的な学習の時間や道徳、学校行事などとも関連付けて、どのようにつなぐのか、学年ごとの目標や小学校 6 年間、中学校 3 年間での目標をどこに置くかは、各学校の実態に合わせて作成してください。このカレンダーは骨格にしかすぎません。ここに肉付けし血を通わせて生きたものにしていただくのは、各学校での作業になります。なお、学校でのＥＳＤカレンダーの活用は、全国的にも先進的な取り組みがいくつかあります。県内でも名張市の薦原小学校ですでに実践されています。同校の了解を得て、その事例を付けさせていただきましたので参考にしてください。また、市内の三重平中学校や中部中学校でもＥＳＤカレンダーを意識した教科横断的な取り組みが行われています。その取り組みについて報告いただいたものも掲載しました。併せて参考にしていただけたらと思います。